

在ムンバイ日本国総領事館海外安全対策情報  
平成27年度第2四半期（平成27年7月～9月）

1. 治安情勢

(1) グジャラート州各地で大規模デモ、外出禁止令が発令

8月26日、アーメダバードにおいて50万人規模の抗議運動が発生し、治安部隊との衝突で10人が死亡した。

暴動を起こしたのは、バイシャ（バラモン、クシャトリヤに次ぐ第3の階級）に属する「パティダール」と呼ばれる社会コミュニティで、多くが同じ「パテル」姓を名乗っている。インドは憲法の下、特定社会層保護政策としてその他の後進階級「OBC」に対し優遇処置を採っているが、今回の暴動の主導者は「パテル・コミュニティ」へのOBC枠の適用、若しくは同政策の完全撤廃等を訴えた。暴動によりアーメダバード市内及び州内数か所で外出禁止令が発令され、出張の取り止め、数日間工場の操業を停止した日系企業も見られた。

(2) ムンバイ市内中心部で欧米人女性への性犯罪被害が連続発生

8月17日、ムンバイ市コラバ地区で欧米人女性がインド人男性から性的いやがらせを受ける事件が発生した。

また、市内中心部の繁華街で1か月半にわたり別の欧米人女性がストーカ被害に遭った。いずれの事件も被害申告による当局の捜査で被疑者が検挙されている。

(3) 空港、ホテルに対し爆破予告

9月29日、ムンバイ国際空港（チャトラパティー・シヴァージ国際空港）及びタージマハルホテルに対する爆破予告があり、治安当局が一時ハイアラート態勢を敷いた。なお、報道によると今回の爆破予告は今年だけでも11回目とのこと。

(4) 国家犯罪統計局（NCRB）による2014年度犯罪統計でゴア州が高位に

NCRBの2014年度犯罪統計によると、外国人に対する犯罪件数に関し、インド国内28州で最も小さいゴア州が73件と最多（デリー首都地域を除く）で、麻薬及び向精神性物質取締法違反で27人が逮捕された。

ゴア州には昨年51万4千人の観光客が訪れ、73件の犯罪被害のうち66件が観光客に対してであり、罪種では窃盗が25件と最も多い。

2. 一般犯罪情勢

(1) 邦人被害事案

7月上旬、ゴア州を旅行中の邦人旅行者が、声をかけられたインド人から宝石をイギリスまで運んでほしい旨打診され、これを断ったところ、複数の者に軟禁された状態となった。被害者は隙を見て逃げ出しバスでムンバイ総領事館に助けを求め被害を免れた。

9月中旬、マハーラーシュトラ州プネ市内で、在留邦人が食事のため下車した際運転手がいるので大丈夫だろうと貴重品を車内に残し車から離れたところ、運転手も一時車から離れた隙に何者かが窓ガラスを割り、金品を窃取した。

(2) 殺人・強盗等凶悪犯罪の事例

ア 殺人

邦人被害の事件は認知していない。

イ 強盗

邦人被害の事件は認知していない。

ウ 強姦

邦人被害の事件は認知していない。

3. テロ・爆弾事件発生状況

期間中、テロ・爆弾事件の発生はなかった。

4. 誘拐・脅迫事件発生状況

期間中、誘拐・脅迫事件の発生はなかった。

5. 対日感情

良好である。

6. 犯罪統計

ムンバイ市警察本部統計による2014/2015年1月1日～9月27日の犯罪認知件数は以下のとおり。

期間／罪種	2014年 1月1日～9月27日	2015年 1月1日～9月27日
殺人	135	124
強盗	513	574
強姦	462	514
傷害	3,043	3,344
窃盗	4,770	5,123
住宅侵入盗（昼間）	386	331
住宅侵入盗（夜間）	1,931	1,969